

## 概要報告

期 日： 平成 18 年 9 月 26 日（火）・27 日（水）・28 日（木）  
会 場： 東京都千代田区永田町 1-1-1 憲政記念館  
主 催： 財団法人海外日系人協会  
後 援： 外務省、独立行政法人国際協力機構、独立行政法人国際交流基金、全国  
知事会、東京都、独立行政法人日本貿易振興機構、独立行政法人国際観  
光振興機構、日本経済団体連合会、日本商工会議所、海外日系新聞放送  
協会  
参加国： 18 カ国 173 名

第 47 回海外日系人大会は、平成 18 年（2006 年）9 月 26 日、27 日、28 日の 3 日間、東京都千代田区憲政記念館、及び東京都新宿区 JICA 国際協力総合研修所において開催された。参加者は、中南米、アジア、ヨーロッパの 18 カ国から 173 名となった。

26 日の式典は、常陸宮殿下の御臨席を賜り、盛大に開催された。27 日の代表者会議には、海外日系団体の代表者が集まり「日系社会の新たな発展を目指して一歴史を振り返り、明日への活力へー」を総合テーマに、日本語教育、在日日系就労への支援、世代交代、国際日系ネット等について議論を行った。討議の末「第 47 回海外日系人大会 大会宣言」がとりまとめられた。

26 日、参加者は、外務大臣の主催するレセプションに招待を受け、多数の国会議員、外交団、政府高官等と交歓した。

### 大会第 1 日目 [9 月 26 日（火）]

#### ● 運営会議・ユース会議 ●

午前 10 時から 11 時 45 分まで、憲政記念館第 3 会議室において海外日系団体代表者、海外日系人協会役員の参加を得て「運営会議」を開催した。この会議は、海外日系人協会と海外日系社会との連携をさらに密にするため、海外日系人協会の運営に関し、広く海外日系社会の意見を求めることを目的に、昨年度より実施している。

会議では、湯川修介海外日系人協会事務局長より、海外日系人協会の事業運営にかかわる現状や見通しなどが説明され、海外日系団体代表者の方々と広く意見交換を行った。

また、同じ時間帯に憲政記念館第 1 会議室においては、県費留学生、県費海外技術研修員、JICA 日系研修員、日本財団日系留学生が集まり、「ユース会議」が実施された。参加した約 50 名の留学生、研修員たちは、6 グループに分かれて「若い世代を日系社会に」をテーマにグループディスカッションを行い、それぞれの意見を発表しあった。さらに、これをとりまとめた内容を、ユース会議代表者が翌日の代表者会議において発表した。

## ● 式典 ●

午後2時00分、出席者全員が会場の憲政記念館に入場し、常陸宮殿下を会場にお迎えして、開会式・式典が開始された。

はじめに、海外移住先没者に対する黙祷があり、塚田千裕海外日系人協会理事長が開会の挨拶を述べた。次いで常陸宮殿下よりおことばがあり、安倍晋三内閣総理大臣の祝辞（長崎弘海外日系人協会副会長代読）、扇千景参議院議長の祝辞（伊藤昌輝海外日系人協会専務理事代読）と続いた。参加者総代として、嶽釜徹ドミニカ日系人協会会長が答辞を述べた。

式典の最後は、殿下への花籠披露で華やかに締めくくられた。ルイ淳子（カナダ）、恵子マジット（インドネシア）、末永克子（ペルー）、竹野華肥（ボリビア）、比嘉純子（フィリピン）、広瀬純子（ブラジル）、笠松美子（パラグアイ）、古堅マリア・クラウディア和賀（アルゼンチン）、熊田和子（韓国）、田中カロリーナ（チリ）、中村悦子（オランダ）、千鶴子エニス（アメリカ）、の皆さんが花籠にばらの花を挿した。最後にアメリカ在住の千鶴子エニスさんが壇上に進み、この花籠を殿下に披露した。

2時45分、常陸宮殿下はご退場され、式典の部は終了した。なお、式典に先立って、常陸宮殿下に対し、塚田千裕海外日系人協会理事長の同席のもと、八木慶男（バンクーバー）、中村達司（ロサンゼルス）、富田いくこ（ハワイ）、東信行（メキシコシティ）、嶽釜徹（サントドミンゴ）、岩瀬隆洪（マラカイボ）、橘谷エルナン（リマ）、尾西貞夫（サンパウロ）、矢野敬崇（サンパウロ）の9名がご面談した。

## ● 全体会議 ●

午後3時00分からは全体会議に移った。石丸和人海外日系人協会常務理事の司会進行で、議長団に河村建夫衆議院議員、藤村修衆議院議員が選出された。

議長である両議員よりあいさつの後、谷崎泰明外務省領事局長、独立行政法人国際協力機構松本有幸理事がそれぞれ所管事項の施策を中心に挨拶をされた後、塚田千裕海外日系人協会理事長が海外日系人協会の事業報告を述べた。会議では翌27日に開催する代表者会議で採択される「大会宣言」を本大会の「大会宣言」とすることが承認された。

その後、第3回海外日系文芸祭賞受賞者発表があり、同大賞受賞者の春日井さおりさん（愛知県在住）が受賞のあいさつを行った。引き続き、海外で発信する日本語メディアを対象に、海外日系新聞放送協会が募集した海外日系新聞放送協会賞の発表も行われた。同大賞はフィリピン・マニラ新聞社の年間企画「慰霊碑巡礼」、キャンペーン・企画・連載部門はタイ・バンコクのボイスメール新聞社の「泰俳句案内 常夏の季語」、ニュース部門賞は大賞と同じくマニラ新聞の「非常事態宣言をめぐる一連の報道」、写真部門にはアメリカ・シアトルの北米報知の「二度とないように」、特別賞にはブラジル・サンパウロのニッケイ新聞の「海を渡ったサムライたち」が、それぞれ受賞した。

## ● アトラクション ●

午後4時30分からは、春風亭栄枝さんによる小ばなし、4時45分からは演歌歌手井上祐見さんの公演「あなたに逢えてよかった」が行われた。井上祐見さんは、過去8年間にわたって毎年南米の移住地を訪れて公演を行っており、日本人移住者の心を歌った「Sou japonesa」では観客が涙ぐむ場面などもあった。

## ● 海外参加者交流・歓迎会 ●

午後5時30分から海外日系人協会塚田千裕理事長主催の大会参加者交流・歓迎会を憲政記念館会議室で開催した。

塚田理事長による歓迎の挨拶の後、来賓を代表して藤村修衆議院議員、山中燐子衆議院議員の祝辞があった。その後、参加者からは熊田和子韓国芙蓉会会長が謝辞を述べ、乾杯の音頭を後藤博子参議院議員が行った。その他、来賓多数の参加を得て、国内・海外の参加者約300名が交流を深めた。

## 大会第2日目 [9月27日(水)]

### ● 代表者会議 ●

午前9時30分、東京都新宿区市ヶ谷のJICA国際協力総合研修所(IFIC)国際会議場において、代表者会議が開催された。参加者は海外・国内合わせ約137名であった。

主催者の挨拶、代表者会議要領の説明、出席者及び海外代表者の紹介を行い、その後、参加者から議長団を選出した。富田いくこ(アメリカ)、松本アルベルト(アルゼンチン)、二宮正人(ブラジル)の各氏、および石丸和人海外日系人協会常務理事が選出され、必要に応じ英語、スペイン語、ポルトガル語の通訳を行いながら次の各テーマ、課題についてそれぞれ議論を行った。

1. 海外日系社会の歴史に学ぶ
2. 海外日系社会の新たな発展のために
  - (1) 日本語教育の充実
  - (2) 在日日系就労への支援
  - (3) 若い世代を日系社会に
  - (4) 国際日系ネットの樹立へ
3. その他

最後に本会議の討議内容を「海外日系人大会 大会宣言」としてまとめ、採択された。

代表者会議終了後には同研修所会議室において記者会見を行い、採択された大会宣言について、塚田海外日系人協会理事長ならびに議長団が発表をおこなった。取材社

は朝日新聞、共同通信、西日本新聞、インターナショナルプレス、トゥドウ・ベン、ロッキーマウンテン時報、サンパウロ新聞、ニッケイ新聞の8社であった。

## ● 外務大臣主催レセプション ●

午後6時より、外務省飯倉公館で外務大臣主催の海外日系人歓迎レセプションが開かれた。麻生太郎外務大臣が歓迎の挨拶をし、中村達司南加日系商工会議所会頭が謝辞を述べた。長崎弘海外日系人協会副会長が乾杯の挨拶をおこない、国会議員や参加国関係外交団らと1時間半にわたる懇談の宴となった。

## 大会第3日目 [9月28日(木)]

### ● 視察研修 ●

午前9時30分、憲政記念館に集合した各国参加者は、バスによりNHKスタジオパークを訪問。約1時間をかけて時代劇スタジオや体験スタジオ等を見学した。その後バスでJICA横浜に移動し、昼食会に参加した。昼食会にはJICA横浜の沢地真所長をはじめ、海外日系人協会役職員らが出席した。

その後、参加者一同は海外移住資料館を見学した。

この視察研修の終了をもって、第47回海外日系人大会、3日間の公式スケジュールを全て終了した。

以上